



消防学校 ニュース



令和3年6月号

特集

第1回 野外訓練 in 浜石岳

～苦しい 疲れた もうやめたでは 人の命は 救えない～

5月25日(火) 初任科 第92期 120人のうち、体調不良により学校で自主訓練を行う4人を除く総勢116人は、最高気温約30℃の暑い中、約20kgの重荷(ホースや水等)に耐えながら、全行程約30kmの野外訓練に挑戦しました。

この訓練は、野外での集団訓練を通じて消防職員が消防活動を遂行するために必要な脚力、持久力等の体力並びに強靱な精神力と共同精神の涵養を図ることを目的としている大変厳しい訓練です。



太田校長訓示



内藤総代から一言



活動方針

「時間通りに最終目的地（被災地）に到着でき、活動を開始できること。」
 「浜石岳山頂は行程の中間地点であり、最終目的地は消防学校である。
 目的地に到着したら、災害活動が待っていることを念頭に活動すること。」



浜石岳山頂

全体目標

『一秒でも早く要救助者のもとへ』

班別目標

1班	事故なく ケガなく 脱落なく	4班	自分に負けない
2班	消防士としての自覚を持ち、 1分1秒でも早く被災地に到着する	5班	全集中！呼吸を合わせて魂の完歩
3班	班員お互いに声をかけ合い助け合い 全員で完歩する	6班	全員完歩 リタイヤしない



学生感想

	行程	距離・時間
1	消防学校 → 薩埵峠駐車場 8:00 出発 8:40	3.0km 40分
	(第1回休憩 10分)	
2	薩埵峠駐車場 → バーベキュー場 8:50 10:00	4.9km 70分
	(第2回休憩 15分)	
3	バーベキュー場 → 浜石岳野外センター 10:15 11:30	3.7km 75分
	(第3回休憩 15分)	
4	浜石岳野外センター → 浜石岳山頂 11:45 12:25	一部山道ルート 30分
	(第4回休憩「昼食」45分)	
5	浜石岳山頂 → 浜石岳野外センター 13:10 13:40	一部山道ルート 30分
	(第5回休憩 10分)	
6	浜石岳野外センター → バーベキュー場 13:50 14:40	3.7km 50分
	(第6回休憩 15分)	
7	バーベキュー場 → 由比駅東公園 14:55 15:20	2.3km 25分
	(第7回休憩 10分)	
8	由比駅東公園 → 薩埵峠駐車場 15:30 16:15	3.2km 45分
	(第8回休憩 15分)	
9	薩埵峠駐車場 → 消防学校 16:25 17:00	3.0km 35分

【総代】総代として、周りを引っ張らなくてはいけない責任感と緊張で肩に力が入り、水分補給や塩分摂取を忘れ、ふくらはぎが攣ってしまい、周りの足を引っ張ることになってしまった。今後は、周りを頼り、周りを巻きこんでこの仲間が最高の期となるように生活したい。

【A学生】時間管理ができず、節度も欠如していた。これは、普段からの訓練態度からでたもので、自己中心的な考えが影響している。こんな心では、要救助者を救うことはできない。もっと、全体の奉仕者として、自分のことだけではなく、周りを気にしながら活動しなければいけない。

【B学生】入校して2か月経ち、少しは成長したのではないかと思ったが、その考え自体が甘いものだった。今回の結果が全て。一人一人が今後の過ごし方を考え直すべき。自分の事で精一杯なのに人を助けることは不可能。また、今回は、仲間に助けられたので、次は、私が仲間を助けたい。

【C学生】準備不足と体力不足。これからの学校や休日の過ごし方を見直し、改善していきたい。今回の野外訓練にリタイアしたのは、消防士として失格。この失敗からの教訓を心に刻んで、あらゆることで努力を続けて、絶対に立派な消防士になります。



担当教官 から一言



入校して約1か月半が経過し、これまでに培った体力や精神力、そして仲間との団結力がどの程度のものなのかを試す絶好の機会でした。天候には恵まれたものの、厳しい暑さと湿度のなか、苦しい表情を浮かべる学生が多く見受けられました。その度に、被災地でもっと辛い、苦しい思いをしている人たちの事を思い出し、仲間と必死に歩きました。

最終目的地の消防学校に到着できた学生は99名でした（欠席者4名・リタイヤ者17名）。

また、到着できたものの、体力的にも精神的にも目一杯の学生が多く、災害活動ができる状態ではありませんでした。今回の訓練で、消防人としての自覚、体力、気力、精神力、忍耐力、団結力等、すべてに関して、まだまだ未熟であることが確認できました。初任科学生は8月に第2回野外訓練が予定されています。今回の結果を糧に、日々の訓練やトレーニングに邁進してもらい、今よりも大きく成長した姿を見せてもらいたいです。

教務課主査 竹ノ内 創（駿東伊豆消防本部から派遣）

雨中での訓練

出動要請・救助要請は晴天の日ばかりではありません



合羽を着て、防火衣を着ての、雨中での訓練

消防学校では、大雨であろうと訓練を実施しています。

学生は、「一秒でも早く、人の命を助ける」信念のもと、雨の日も暑い日も、頑張って訓練をしています。

太田危機管理部長視察

本庁の幹部職員にしっかり見ていただきました



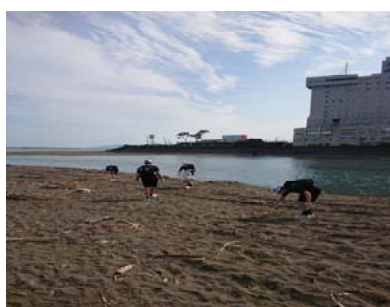
森危機政策課長とともに、学生と同じ昼食を体験し、訓練の様子や施設等を視察

6月1日（火）、県危機管理部の太田部長が来校し、訓練の様子や消防学校の施設を視察しました。学生が厳しい訓練の合間にほっとしてとる昼食の様子、講義やグラウンドでの訓練に励んでいる様子、また、教官の厳しい指導の様子を、部長は熱心に御覧になっていました。その後、校長と意見交換をし、部長に消防学校の現状を肌で理解していただきました。

このように、当校では本庁と連携し、学生が訓練に集中しやすい環境の整備に取り組んでいます。

奉仕活動

～地域の清掃活動を実施しました～



興津川河口周辺での清掃活動の様子

6月7日（月）、初任科学生による地域の清掃活動を実施しました。今回は各クラスにわかれ、消防学校周辺、興津川河川敷、興津川河口周辺の3か所を重点的に行いました。

消防学校教育は、地域住民皆様の御理解、御協力があってこそ行えるものと考えています。

今後もこのような機会を作り、地域社会に貢献する取り組みを積極的に行っていきたいと思います。

教務課主査 中村 一二三（静岡市消防局から派遣）

太田校長のちょっといい話

第92期

がんばれ



初任科生も日々の訓練を経て、入校当初に比べかなり消防人らしくなってきました。

私も消防大学の新任消防長・学校長科に5月11～21日の約2週間入校してきました。

新任消防長・学校長科では、消防吏員ではない一般行政職員が、消防長や消防学校長に就任した際に必要となる知識の習得、消防組織の長としての心得を学ぶとともに、訓練礼式や実技訓練、指揮シミュレーションなど、実際に体を使った訓練(ほんの初歩の初歩ですが)も行われました。

入校期間中は土日も含め外出禁止でしたが、全国の消防長、学校長と仕事での体験談やお国自慢など様々な話をするのができ、楽しくも参考になる時間を過ごすことが出来ました。

一番印象深かった講義は、元東京消防庁消防総監の新井雄治客員教授による東日本大震災時の東京消防庁の活動記録でした。

救助活動(実際には、ほぼ遺体収容)の写真では、津波により多数のご遺体が打ち上げられている写真、消防隊員が上半身だけのご遺体の泥を拭っている写真、福島原発の冷却放水作業中に、急激に放射線量が上がり警報音が響き渡る中、隊長が部下を制止している動画など、災害現場の現実を改めて考えさせられるものでした。



消防大学から自宅に戻る新幹線(静岡下車後直ちにPCR検査を受けました)の中で、頭に浮かんだのが、次の2つの言葉でした。(うる覚えだったので、自宅で改めて確認しました。)

「**専門家とは、その対象とする部門について、非常に多くの知識を持っている人というのではなく、その専門とする分野において起こり得る最も重大な間違いを知っており、従って如何にしてこれを回避できるかを知っている人である。**」ドイツのノーベル物理学賞受賞者ヴェルナー・ハイゼンベルグ博士の言葉です。博士は、量子力学に対する多大な貢献をしましたが、ナチスドイツの原爆開発に係わったことを死ぬまで後悔していたということです。

デスクワークが長いと、得てして知識に偏りがちになりますが、防災や消防に係わるものは、この言葉を頭の片隅に常に置いていることが必要だと改めて感じました。

もう一つは、ピタゴラスの定理で有名な数学者ピタゴラスの言葉で「**多くの言葉で少しを語るのではなく、少しの言葉で多くを語りなさい。**」です。

消防大学で、多くの先生たちの話を聞き、改めて言葉の大切さを感じました。自分も学校で講話や訓示等を行うことがあるので、少ない言葉で学生に多くを理解させる努力をしていきたいと思います。

消防大学で、多くの先生たちの話を聞き、改めて言葉の大切さを感じました。自分も学校で講話や訓示等を行うことがあるので、少ない言葉で学生に多くを理解させる努力をしていきたいと思います。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

